

## 国際化学肥料ニュース (2013年2月号)

### 肥料業界の2013年2月動態

- \* 2月13日、イスラエル ICL、DSW (Dead Sea Works) とヨルダン APC の3社合同代表団はインド IPL 社 (インド加里) との間に2013年上半期の塩化加里契約を締結した。契約価格は CFR 427 ドル/トンである。その後、カナダ Canpotex も同様の価格でインド側と契約した。
  
- \* インド IPL は2013年上半期の塩化加里輸入価格を決定したことを受け、190万トン塩化加里の輸入契約を締結した。その内訳は BPC100万トン、ICL52.5万トン、APC22.5万トン、Canpotex15万トン。また、K+S との間に10万トンの契約を商談中である。ほかのインド輸入業者は今年に150~200万トンを輸入する予定である。
  
- \* 2月に Canpotex と BPC は東南アジアに CFR450 ドル/トンの価格で塩化加里を販売した。大消費国マレーシアには450ドル/トンよりさらに値引きして3000トンを輸出した。インドネシアにも3500トン。BPC は台湾に1.5万トン、フィリピンに5000トン輸出した。
  
- \* 2月13日からドイツ K+S はEU諸国に輸出する塩化加里を値上げした。元々K+S はアジアや南米、EU以外の国に輸出する価格に比べ、EU内の塩化加里価格を安く抑えてきた。今回の値上げをしても、EU諸国に供給する塩化加里の価格が依然一番安い。
  
- \* ブラジル全国肥料販売協会の統計データによれば、2012年の肥料販売数量が2953.7万トンに達し、前年度より4.3%増、史上最高となった。販売増の原因は農産物需要増で、農産物価格が上昇し、輸出の改善と農作物耕作面積の増加によるものである。2013年も生産者が収入増を見込んで、肥料使用意欲が盛んで、肥料販売量がさらに増加し、2012年より3.26%増の3050万トンに達する見通しである。
  
- \* チュニジアのりん酸肥料産業は2010~2011年に起きたジャスミン革命の影響から次第に回復した。TabesにあるMAP工場の生産が再開した。DAP工場の生産も近いうちに再開する見通し、Tabes港からりん安輸出も再開した。チュニジア GCT 社は1月に

2.5 万トンりん安をウルグアイに、2 月 18～22 日に 5000 トン DAP をルーマニアに輸出した。

- \* サウジアラビアの DAP 輸出が旺盛で、1 月にエチオピアに 2.5 万トンを輸出する契約をして、現在、インドとの間に CFR500 ドル/トン以下の価格で DAP の輸出に関する商談中である。また、3～4 月に東南アジアに FOB490 ドル/トンで 5～6 万トン輸出する予定である。また、MPC (Sabic の子会社) は 2 月 16 日に生産を全面再開した。
  
- \* ロシア新聞報道によれば、2 月中旬にロシア Uralkali 社がベラルーシ BCP 社と合弁で「加里肥料販売連合」会社を設立する議案を同意した。2 月 18 日、ベラルーシ BCP 社も同様の議案に同意した。この 2 社が合弁設立する販売子会社はスイスのツーク (Zug) に本社を据え、資本金 20 万スイスフラン、両社が 50%出資する。今年 6 月末から営業開始。
  
- \* 天然ガスの供給不足で、エジプトの尿素メーカーが設備の休止を相次いでいる。Alexfert 社は設備稼働率が 50%に落ち、OCI 社は全量国内に供給、Helwan 社は稼働率 60～70%、Mopco 社は稼働率 70～80%しかなかった。生産量が減ったため、輸出価格が上昇した。Mopco 社は 2 月 13～14 日にイタリアに輸出する 2.5 万トン尿素の入札を行い、最終落札価格が 505 ドル/トンで、2012 年 5 月以来の最高値となった。また、Helwan 社も 2.5 万トン大粒尿素の入札を行い 2 月末輸出する予定。

## 大手各社の営業業績

### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* モロッコ OCP はベルギーの Prayon 社との間に可溶性 MAP の生産技術移転に関する契約を締結した。Prayon 社はりん酸塩メーカーで、先進技術を持っている。OCP は付加価値の高い可溶性 MAP の生産技術を導入して Jorf lasfar 工場生産ラインを建設し、2015 年 6 月から生産する。年間生産量が 10 万トン予定。

### その他

- \* 1 月 31 日のカナダ新聞によれば、カナダの三大加里肥料メーカー (Potash Corp、Agrium Inc、Mosaic Co.) はアメリカ農家と加里肥料末端販売業者共同で提訴した塩化加里販売カルテル訴訟に和解した。和解金が 9700 万ドル。本件の訴訟は 2008

年にイリノイ州の裁判所で行い、農家と末端販売業者はカナダ、ロシア、ベラルーシの加里肥料メーカーと輸出連合が世界塩化加里生産量の70%以上を独占する地位を利用して、値下げを防ぐために共同で減産を行い、アメリカ農家に損失を与えると提訴した。被告の各メーカーは指摘を否認し、反論を行った。双方とも訴訟の長期化を避けるために和解を選んで、ロシアとベラルーシは2012年9月に和解をし、今回カナダメーカーの和解により、本件の訴訟を終結した。

- \* 旧正月（2月10日）を過ぎ、ベトナム尿素市場が活発してきた。春季需要により、農家の購買量が増加し、国内販売価格が約15ドル/トン値上げした。2月末現在、ホーチミン市のPhu My工場袋詰め尿素の価格460ドル/トン、大粒尿素バラ品440ドル/トン、Ca Mau工場の大粒尿素の東南アジアCFR価格440～442ドル/トンとなっている。なお、1月の尿素輸入量が7,05トンだけであった。
  
- \* リビアLifeco社はMarsa el Brege工場の尿素生産ラインを再開した。当工場が2本の尿素生産ラインを有し、稼働率が70～80%。ノルウェーYara社が輸出担当で、トルコにFOB400ドル/トンで輸出し、スペインとイタリアにも輸出の商談中である。